

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	20-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b> The impact of DSM classification changes on the prevalence of alcohol use disorder and 'diagnostic orphans' in Lebanese college youth: Implications for epidemiological research, health practice, and policy レバノン人大学生を対象とした DSM 分類変更のアルコール使用障害の罹患率と”未診断疾患”における影響：疫学研究、健康指導、政策への示唆		
<b>執筆者</b> Ghandour LA, Anouti S, Afifi RA.		
<b>掲載誌</b> PLoS One. 2020 Jun 5;15(6):e0233657. doi: 10.1371/journal.pone.0233657. eCollection 2020.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
未診断疾患、アルコール使用障害		32502221
<b>要旨</b> <b>目的：</b> アルコール使用障害 (AUD) を Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM)-IV と DSM-5 で分類した際に、AUD の罹患率を比較した報告は少ない。本研究では、DSM-IV と DSM-5 を用いた際の罹患率を比較することと、DSM-5 で生じうる未診断疾患 (DOs) の特徴の記述を目的とした。 <b>方法：</b> 2016 年 5 月にレバノンのグレーターベイルート地区にある 6 つの大学から 1155 名を便宜的に抽出し、匿名で社会人口統計学的因子 (年齢、性別、現在の学位、生活環境など)、飲酒パターン (飲酒年数、頻度、飲酒に関連する DSM-5 の健康問題など)、飲酒関連政策への考え (学生の政策認知、政策の飲酒量への影響など)、健康関連リスク行動 (喫煙歴、違法薬物の使用歴など) を調査した。DSM-IV 乱用/依存は、1 つ以上の乱用基準を満たすか 3 つ以上の依存基準を満たすものとした。DSM-5 AUD は、11 ある AUD 基準のうち 2 つ以上を満たすことと定義した。DSM-5 AUD 重症度は、軽度 (2-3 基準)、中等度 (4-5 基準)、重度 (6 基準以上) とした。DSM-IV と DSM-5 を用いた罹患率は相対頻度で比較した。分類の一致率と Cohen's Kappa は DSM-IV と DSM-5 間で算出した。また、2 変量モデルで $P < 0.05$ を示した変数を全て組み込んだ多変量回帰分析モデルを用いた。 <b>結果：</b> DSM-IV と DSM-5 の AUD 基準におけるデータは 582 名の過去飲酒者から得た。そのうち、377 人 (65%) は DSM-IV 乱用/依存に分類され、203 人 (35%) は DSM-5 AUD 基準を満たした (軽度 58%、中等度 21%、重度 21%)。DSM-IV と DSM-5 の一致率は 68% ( $\kappa = 0.41$ ) であった。191 人が 1 つの DSM-5 AUD 基準を満たし、DO となった。そのうち 82% は、危険を伴う飲酒であった。多変量解析の結果、DSM-5 AUD 基準を満たさない飲酒者と比較すると、DO である者は 21 歳以上であること、社会経済的には貧困レベルではないこと、週に 1-2 回程度の飲酒を行うこと、過去の喫煙歴があることと関連していた。また、DSM-5 AUD 基準を満たす飲酒者と比較すると、DO である者は、大学院の学位または医療関連の学位を取得見込みであること、家族と居住を共にしていることと関連があった。DO である者は、AUD である者と比較して、飲酒頻度が低いこと、過去の水タバコの喫煙歴が少ないこと、過去のマリファナ使用歴があることと関連していた。 <b>結論：</b> DSM-IV 乱用/依存の罹患率は DSM-5 AUD の罹患率より高かった。その要因として、危険な飲酒に該当する学生の割合が高かったことが考えられた。DO スクリーニングは、非飲酒/機会飲酒者から高頻度飲酒/AUD 該当者への移行期にある青年を捉えている可能性がある。このため、DO の予防、同定、管理は国家的減酒政策の重要な因子であるかもしれない。		